## 高松塚古墳
## 解体実験用石室の公開

飛鳥資料館の庭園に、高松塚古墳の石室の実物大複製が登場しました。この石室は、平成18年から翌年に実施された高松塚古墳の石室解体作業のために製作されたものです。石材をつり上げる装置の開発や、作業のシミュレーションのために、京都府加茂町の実験場で使用された解体実験用の石室です。

実験用石室は実物と同じ16石で構成されています。石室内寸は実物にあわせていますが、外形は盗掘孔のある南面だけ見えていた状態で全体を推定して製作したため、寸法や形状が実際と異なる部分がありました。そこで、実物の情報をもとに梃子穴（てこあな）や相欠（あいかき）といった特徴や、予想外の形だった一番北の天井石を補足し、できるだけ実物に近い形状に整えました。実物の石材は二上山産の凝灰岩ですが、現在は入手困難なため、福島県産の凝灰岩（白河石）を使用しています。

実験用石室は石室解体事業が終了した後、飛鳥資料館で保管していました。その活用がながらく課題でしたが、石工の左野勝司氏の協力を得て、石材の加工と組み立てをおこない工事も完了し、公開することができました。

石室解体の現場では石室周辺に最低限の空間しかなかったので、石室の全貌を見通して眺めることはできませんでした。今回の展示によって、はじめて床石から天井石まで全体を見渡すことができるようになりました。

小さな古墳と言われることが多い高松塚古墳ですが、この石室で、実物大の迫力を体感してください。

（飛鳥資料館　石橋 茂登）

公開された解体実験用石室